

「知っていますか？がん治療 ～みんなが知りたい抗がん剤の話～」 Q&A集

【Q】がんになる前、なりかけの時の前兆はあるものなのでしょうか？

【A】一般的にがんの早期には、無症状のことが多いと考えられます。

【Q】健康診断を受けていても手遅れだったりするのはなぜ？

【A】がん検診は、主に検査が簡単で早期治療により効果が得られるがん（胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がん）を対象としていますので、それ以外のがんは見つけにくいと考えられます。また、肺がんなどは部位によっては見つけにくいこともあり、検診でがんを100%見つけることは、現在のところ困難です。

【Q】抗がん剤治療の途中で虫歯が大きくなってきました。抗がん剤治療と平行して虫歯の治療を早急にしたいほうが良いか、様子を見てからが良いか？

【A】虫歯は治しておいてから抗がん剤治療を行うのが望ましいです。しかし、そのタイミングを待てないこともあるでしょう。抜歯をする必要の有無によっても変わりますので、主治医に相談されるのが良いかと思われます。

【Q】抗がん剤治療を断念する目安は？

【A】抗がん剤をやらない、という治療もあります。ある一定以上日常生活が障害されるようなら、治療をやる意味を今一度再考して、継続の可否を判断することが目安だと考えます。

【Q】レジメン登録について：副作用で体重が減る場合もあると思いますが、その都度計算して登録しなおし、適量投与されているという理解でよろしいでしょうか？高い薬だと医療費も関係してきますよね？

【A】その通りです。定期的に体重測定を行いその時々適正な投与量を算出しています。投与量によっては薬剤費も変わりますので、適正使用という観点からも大事なことだと思います。

【Q】抗がん剤治療を受けており、副作用として特にしびれと食欲不振が日常生活に支障をきたしている。主治医からは抗がん剤治療は続ける方がよいと言われているが、続けるべきか悩みます。本人の価値観が大事と伺いましたが、考え方の整理の仕方などアドバイスいただければと思います。

【A】治療とはいっても日常生活に大きな支障が出てしまうようでは、継続することのメリットがデメリットを上回っているとは考えにくいと思います。治療の間隔を少しあけたり、お休みの期間を設けたり、対応の仕方はいくつかあると思います。治療なので辛い、ということはないと思いますので、頑張れる前向きな気持ちへの回復期間を設けながら

やっていくことも大切かと思えます。

- 【Q】** 大腸がんで抗がん剤治療を月2回受けており、副作用で食べ物を見るのも嫌なほどの食欲不振があります。しかし、味の濃いものは好んで食べます。食欲不振への対処法を教えてください。
- 【A】** 副作用で味覚障害が出現し、味の濃いものでないとおいしく感じられないのだと思われます。食欲がないときは、好きなものを好きな時間に食べるのはいいと思います。また病院で処方される半消化態栄養剤や、ドラッグストアなどで販売している栄養補給飲料等がありますので、それらを組み合わせて栄養補給やカロリー補給をするのも一つの方法です。
- 【Q】** がんで離職や就労困難で退職を考えている場合、ハローワークとの連携も、という話がありましたが、実際にその支援を利用した方や使用した仕事に就かれた方はどれくらい？家族でも相談可能ですか？
- 【A】** ハローワークが「長期療養者支援事業」を始め、「病気の状態」「治療状況」などを考慮し、ハローワークの就職支援担当者が個別に就労支援にあたるようになりました。平成28年度末から磐田のハローワークと磐田市立総合病院と試行を始め、平成29年度から正式に活動を始めます。
- 病院で（がん相談支援センター）就労相談をされ就労希望があった方には、ハローワークの就業支援担当者に連絡をとり、スムーズな就労活動ができるように連携しております。開始したばかりで連携させていただいた方はわずかのため実績はこれからになります。ご家族のご相談も可能ですが、まずはお問い合わせください